

■ちーびし

○研究会記録

【第12回定例研究会】

日 時：2月2日（水曜）
午後6時～7時30分
場 所：法文学部2号館3階会議室
報 告 者：山本一哉（法文学部）
報告題目：「奄美の黒糖焼酎産業について」

【第13回定例研究会】

日 時：3月18日（金曜）
午後6時～7時30分
場 所：法文学部2号館3階会議室
報 告 者：土居正典（法科大学院）
報告題目：「アマミノクロウサギ自然権訴訟と改正行政事件訴訟法」

【第14回定例研究会】

日 時：4月6日（水曜）
午後6時～7時30分
場 所：法文学部2号館3階会議室
報 告 者：北崎浩嗣（法文学部）
報告題目：「奄美の農業と農協合併」

【第15回定例研究会】

日 時：6月1日（水曜）
午後6時～7時30分
場 所：法文学部2号館3階会議室
報 告 者：遠城道雄（農学部）
報告題目：「ヤムイモ栽培と利用の可能性」

【第16回定例研究会】

日 時：7月6日（水曜）
午後6時～7時30分
場 所：法文学部2号館3階会議室
報 告 者：朴 源（法文学部）
報告題目：「『三位一体の改革』と財政力弱体市町村」

【第17回定例研究会】

日 時：9月7日（水曜）
午後6時～7時30分
場 所：法文学部2号館3階会議室
報 告 者：木部暢子（法文学部）
報告題目：「奄美の方言－方言の記録と保存－」

【第18回定例研究会（予定）】

日 時：10月5日（水曜）
午後6時～7時30分
場 所：法文学部2号館3階会議室
報 告 者：西隆一郎（工学部）
報告題目：「サンゴ礁海岸の安全利用について」

○執筆者紹介

①生年・出身地, ②所属, ③専門領域, ④研究業績, ⑤奄美と関係した活動の順番で掲載しております。

⑤ 奄美, 沖縄地方における循環型社会構築の可能性について, フィールド調査を中心に研究を実施している。

今年度は, 離島におけるリサイクル政策の費用便益分析を行なっている。

■原口 泉 (はらぐち いずみ)

- ① 1947年・鹿児島県
- ② 鹿児島大学生涯学習教育研究センター長, 法文学部教授
- ③ 日本近世・近代史
- ④ 『NHKかごしま歴史散歩』(日本放送出版協会, 1986), 『鹿児島県の歴史』(山川出版社, 1999), 『喜界町誌』(喜界町, 2000), 『薩摩藩文化官僚の幕末・明治』(岩田書院, 2005)
- ⑤ 大和村誌編纂委員
非営利活動団体「奄美・デイ!」理事(法人格取得申請準備中)
放送大学奄美教室講師(2002~2006年)
南島史学会評議員
長島文化財団評議員

■采女 博文 (うねめ ひろふみ)

- ① 1952年・鹿児島
- ② 鹿児島大学法科大学院教授
- ③ 民法学
- ④ 「いじめ裁判と安全配慮義務・報告義務」鹿大法学論集39巻1号, 2005年。「入会権の全員一致原則の機能」鹿大法学論集38巻1・2号, 2004年
- ⑤ 本プロジェクト事務局

■坂田 裕輔 (さかた ゆうすけ)

- ① 1971年・大阪府
- ② 近畿大学経済学部助教授・放送大学客員助教授
- ③ 環境経済学
- ④ 'An estimation of the residential utility for the local waste management services of Kagoshima', Working Paper Series, School of Economics, Kinki University, E-5, 2005
『ごみの環境経済学』見洋書房, 2005年
屋久島ゼロエミッションプロジェクトワーキンググループ『ゼロエミッション屋久島プロジェクト』海象社, 2004年
「滞在型ツーリズムと持続的な経済発展」(鹿児島大学プロジェクト「島嶼圏開発のランドデザイン」編『奄美と開発』南方新社, 2004年, 第二部二, p. 219-242)

○編集後記

■ 表紙は前号に引き続き、竹村剛さん（大学院人文社会科学研究科地域政策科学専攻）よりいただいた、瀬戸内町古仁屋の写真です。

向かって左端は、古仁屋市街地の七夕飾り。奄美では、七夕を旧暦で祝う習慣があります。この時期には、家々で七夕飾りが飾られ、通りが華やぎます。

中央と右端の写真はそれぞれ、8月13～14日に開催された「みなと祭り」で行われた「舟こぎ競争大会」と、「市中パレード」です。

「みなと祭り」の前夜祭で行われる「市中パレード」では、消防団や婦人会などの団体がそれぞれに踊ったり神輿をかついだりしながら、市街地を練り歩きます。

本祭では、「舟こぎ競争大会」が行われます。同窓生や集落ごとにチームを作り、漁港内を一周するタイムを競います。舟の最後尾には、舵取り役が乗ります。チーム全員の息が合わなければ、良いタイムが出ません。この「舟こぎ競争」の後、集落ごとに集まった踊り連による「八月踊り」があります。「みなと祭り」は、島のパワーを感じることができる行事です。（今徳）

研究責任者 山田 誠

奄美ニューズレター

発行 鹿児島大学

編集責任者 萩野 誠

AMAMI News Letter

発行日 2005年10月4日